

第11回

# 中学生訪中親善使節団報告書

平成14年 3月26日(火)～ 3月31日(日) 6日間

上海・南昌・北京



財団法人

Takamatsu International Association  
**高松市国際交流協会**

# 目 次

1 団 員 名 簿	.....	1
II 日 程	.....	2
III 使節団の活動状況	.....	3
IV 感 想 文	.....	9

## 高松市中学生訪中親善使節団団員名簿

団 長	白 井 隆	高松市教育委員会学校教育課 指導主事
同行看護婦	須 田 まゆみ	高松市民病院看護主任
同行職員	何 燕 萍	(助)高松市国際交流協会事務局員
団 員	伊 川 ゆりえ	高松市立太田中学校
〃	岩 田 祐佳梨	高松市立山田中学校
〃	上 原 由 紀	高松市立龍雲中学校
〃	右 川 貴 子	高松市立桜町中学校
〃	岡 根 由 佳	高松市立桜町中学校
〃	小 山 達 也	高松市立玉藻中学校
〃	笥 美 里	香川第一中学校
〃	冠 野 美由希	香川大学教育学部附属高松中学校
〃	松 村 さ り	高松市立桜町中学校
〃	河 野 正 和	高松市立鶴尾中学校
〃	里 益 実	高松市立香東中学校
〃	世 戸 大 貴	香川誠陵中学校
〃	武 田 あ や	高松市立玉藻中学校
〃	田 中 幸 二	高松市立山田中学校
〃	田 中 光 恵	高松市立屋島中学校
〃	寺 下 景	高松市立桜町中学校
〃	戸 城 多 恵	高松市立太田中学校
〃	松 本 祐佳里	高松市立桜町中学校
〃	御 堂 穂乃香	高松市立玉藻中学校
〃	藪 木 健 吾	高松市立山田中学校

# 日 程

2002年3月26日(火)～3月31日(日)6日間

日次	月日(曜)	主 な 行 事	宿 泊
1	3月26日 (火)	8:30 アイバル前集合 9:00 高松発(専用バス) 13:30 関西空港着 15:35 関西空港発(CA922) 16:20 上海着 外灘見学	上 海 泊 虹橋賓館 上海市延安西路2000号 TEL:86-21-62753388 FAX:86-21-62753736
2	3月27日 (水)	7:00 朝食 上海動物園、上海博物館、玉仏寺、 金茂大廈、南京路等見学 20:30 上海発(夜行列車K287)→南昌へ	車 中 泊
3	3月28日 (木)	7:50 南昌着 8:30 朝食 10:30 南昌市人民政府を表敬訪問 11:00 滕王閣へ出発 11:30 滕王閣見学 12:00 昼食 14:00 八大山人記念館見学 15:30 南昌市工芸美術商店 17:30 歓迎会 18:30 ホームステイ(ホストファミリー出迎え)	ホームステイ  引率者は日中友好会館 南昌市湖滨南路28号 TEL:86-791-8520216
4	3月29日 (金)	8:30 日中友好会館集合 9:00 豫章中学校へ出発 9:30 学校見学 生徒と交流 12:00 昼食 13:00 八一起義記念館見学 14:00 八一広場見学、ショッピング 17:00 ホームステイ(ホストファミリー出迎え)	ホームステイ  引率者は日中友好会館
5	3月30日 (土)	6:10 日中友好会館集合 6:40 昌北空港へ出発 8:05 南昌発MU5149便にて北京へ 10:15 北京到着 11:00 故宮博物館見学 13:00 昼食 13:40 万里の長城へ 16:30 長城を後に 17:00 昌平友誼商店ショッピング 19:30 夕食(北京ダック)	北 京 泊  友誼賓館 地址:北京海淀区白 石橋路3号 电话:86-10-68498888
6	3月31日 (日)	6:40 ホテル出発 9:15 CA927便で北京空港→関西空港へ 13:00 関西空港着 14:00 関西空港発(専用バス) 18:30 高松着	

※CA:中国国際航空 MU:中国東方航空 時間はすべて現地時間

## 使節団の活動状況

3月26日(火)

●高松～上海

3回の事前研修を経て、いよいよ中国への出発の日がやってきた。やや緊張気味の表情の団員である。出発式では、昨日高松市長を表敬した折の「しっかりと見聞を広めてください。そして、なによりも楽しんでください。」という激励の言葉を団員に伝え、また、見送りに来てくださっている保護者の方々には「6日間でしっかり成長した姿をお見せできることを期待して待っていてください。」という団長のあいさつ。そして、全員もう一度この使節団としての中国訪問の目的を確認し、元気にバスに乗り込んだ。

バスの中では、緊張感もすぐに和らぎ、お互いの自己紹介や学校での生活の話などに華が咲き、気がつけば関西空港に到着。まずは団員の交流は成功というところであろうか。

出国手続きを終え、搭乗ゲートでの集合写真を1枚。「はい。ポーズ！」

飛行機の中で出された機内食の一品に和蕎麦があったが、よく考えてみれば、日本食ともしばしの別れ。今日の夕食からは14食連続の中華料理である。現在の日本の子どもたちの食生活を考えるとちょっと不安な面も。(食事マナー、偏食などの食生活の乱れ)

上海虹橋空港に無事到着。天気は予報通りの雨(出発前にインターネットで中国の週間天気予報を確認したが、上海、南昌滞在中はずっと雨で、北京のみ晴れとのことであつたので覚悟はしていたが……)。団員に重苦しい雰囲気は漂っていたが、到着ロビーで出迎えて下さっている陳さん(上海、南昌、北京を同行して下さる南昌外事弁公室職員)と上海滞在中お世話になるガイドの朱さんを見つけると、使節団一行は気を取り直し、一路虹橋賓館(ホテル)へ。

夕食の上海料理に舌づつみし元気を取り戻した一行は、外灘の夜景見学に出発。雨の上海もなかなかのものであると感じたのは私だけ?



アイパル前での出発式



見送りの方たち



出発前の関西空港搭乗ゲートにて

3月27日(水)

●上海

一夜明けて、中国初めての朝。今日は雨の中の市内見学かと窓の外を見ると、何と青空が広がっているではないか。日頃のおこないの良さ（誰の？）に納得しながら出発の準備を済ませて朝食（バイキング）へ。

朝食のための集合がロビーに7時であったので、6時50分ごろからみんなを待っていたが来ない。7時にやっと一人、またひとり。5分が過ぎた頃に集団でやってきた。『5分前行動が早くも音をたてて崩れ去っていく……。』朝食後、早速ロビーにてミーティング。時間厳守、集団

行動、訪中の目的などなど。『こんな貴重な体験はできない。本物の中国に触れることのできるチャンスである。添乗員についていくだけの単なる旅行者で終わって欲しくない。』そんな思いを込めての団長の話であった。

さて、まずは上海動物園に向かう道々の光景。朝の通勤時間と重なったためでもあるが、道路は自転車、バイク、自動車がごちゃごちゃであり、その間をすり抜けるように人々が道路を横断している。バスに乗っている私たちも『危ない！』と手に汗を握ってしまった。隙間があればどンドン入ってくるし、自動車すれすれに人が歩いているのである。公安（日本では交通整理の警察）の人が交差点に立ってはいるが、何を見ているのだろうか？素朴な私の疑問に同行の何さんや陳さんは、「安全のためです。」といわれたがよく分からない。中国のスケールの大きさや生活のにじみ出ているこの光景にあらためて感動を覚えた。

上海動物園では、ジャイアントパンダ2頭が愛くるしい姿で私たちを迎えてくれた。

最近、野生のパンダが激減しているというニュースを耳にしたが、中国も種の保存のために国家をあげて努力をしているそうである。環境問題や自然界の動植物については、全世界の人々が真剣に考え、取り組んでいかなければならない問題であることを痛感させられた。

上海博物館には、青銅器・陶磁器から絵画・仏像・銅鏡など6,000年間におよぶ中国の歴史の文物が数十万点収蔵されており、景德鎮の焼き物や山水画、家具の彫刻などは圧巻であった。眺めていると何千年もタイムスリップしたかのような錯覚に陥り、あらためて中国の歴史や文化の偉大さを肌で感じる一時であった。



玉仏寺にて

玉仏寺を見学した後、中国一のノッポビル金茂大廈（ジンマオタワーシア）の88階の展望台へ。すぐ隣にある3つのダンゴを突き刺したような姿の東方明珠電視塔や対岸の外灘に建ち並ぶビルを見ると、上海市の国際都市としての近年の急速な発展を垣間見たような気がした。

そして、いよいよ南京路での自由行動。昨年

の団長から話は聞いていたが、いざその時を迎



上海博物館

えると、一本道だから大丈夫と書いていても不安感が募る。そんな心配をよそに団員たちは人ごみに飲まれていってしまった。

集合時間の5分前、3人が帰ってこない。同行職員や陳さんの顔に緊張の色が走る。15分が過ぎた頃、走ってくる3人の姿が見えた。その途端、全身の力が抜けるのを感じた。3人にとっては、心に残るほろ苦い思い出になったことであろう。しかし、3人を心配し、温かい声をかけていた他の子どもたちを見ていると、今回の訪中は何としても成功させねばならないし、その責任を負っていることを強く感じた。

夕食後、20時30分上海発の夜行列車にて一路南昌へ。寝台列車での一夜を過ごす。

3月28日(木)

●南昌

午前7時37分小雨の中、南昌駅に到着。張知明さんをはじめ南昌市職員の方々の出迎えを受け、南昌の街並みをながめながら、青山湖のほとりに建つ日中友好会館へ。車中泊の疲れを少々みせながらも朝食はお粥に人気が集まった。箸を運ぶ様子を見る限り、今日のスケジュールもこなしていけそう。

10時過ぎ、いよいよ日中友好会館において南昌市人民政府を表敬訪問。李市長さんはじめ多くの方が温かい笑顔で迎えてくださった。かなり緊張しながらも、団員一人ひとりが中国語で自己紹介をすることができた。歓迎の言葉をいただきながら親善使節団の使命を改めて実感した。

表敬訪問を無事終え、長江から南における三大名楼のひとつ、滕王閣へ。あいにくの天候であったせいか観光客がいつもに比べ少ないようだ。晴れていれば南昌市街を一望できるはずであったが残念。昼食をすませ、八大山人記念館へ。明末から清初めにかけて活躍した書画の巨匠の貴重な書画をみることができた。記念館わきの池で釣り糸をたれる人の姿があり、ゆったりとした時間がながれていた。

友好会館へ着くと歓迎夕食会が催された。食事中、



雨に霞む滕王閣

夕方のニュースで午前中の表敬訪問の様子が放映され、大きな歓声がわき上がった。

19時。歓迎夕食会をすませると、早速ホストファミリーの方々が迎えにきて下さっていた。

「話は通じるのかなー、めっちゃ、緊張するわー。」口々に不安をいただいていた団員たちも、自分のホストファミリーを自己紹介されるといっぺんに笑顔で応え、それぞれのホームステイ先へと出かけて行った。なんとかなるよ、みんな頑張ろう。



出迎に來ているホストファミリーの皆さん

3月29日(金)

●南昌

南昌二日目の朝、天候曇り。8時30分、ホームステイ先から団員がおみやげを抱えて帰って来た。帰り着くや否や興奮さめやらぬ様子。お互い情報交換に忙しい。



豫章中学校の校舎

さあ、今日は学校訪問へ出発。バスが豫章中学校到着と同時に盛大な歓迎を受け、スターになったような気分を味わう。こんなに歓迎されているのでしょうか。本当にありがとうございます。先生方に案内され交流会の会場である講堂へ。豫章中学校のソ・ホーさんの司会により私達の紹介をしていただく。続いて豫昌中学校校長先生・臼井団長先生・中学生代表の挨拶、おみやげ交換。豫章中学校「春の歌」の舞踊から始まった。皆笑顔で一生懸命踊っていて、衣装もすてき。なんともいえない中国らしさ、演技力に感心するばかり。日本の「さくらさく



いつ、ビンゴできるかしら



一緒に踊ろう「高松の一合まいた」

ら」「北国の春」なども立派に披露してくれた。私たちは合唱、〇×クイズ、ビンゴゲーム、モーニング娘の歌、そして最後に高松まつりの一合まいたの踊りを披露。研修中の練習ではロボットのように言われたはずなのに、今日は最高の出来。レッツ、ダンス！豫章中学校の皆さんを誘って楽しく笑顔で踊ることができた。交流会の後、学校内を見学。授業風景はどのクラスも緊張感があり、授業に真剣に取り組む姿にすがすがしい印象を受けた。本当に最後まで熱烈な歓迎を受け感謝！感激！





「有朋自遠方來、不亦樂乎」豫章中の生徒たち



すばらしい書道をいただきました。

午後からは晴天となり昼食をすませたあと、八一起義記念館、人民広場見学。昨日、今日と大役を終え、だいぶリラックスしてきたようである。市内のスーパーでの買い物も体験でき、買ったものを見せ合いっこし、中学生パワー炸裂といったところであった。16時30分友好会館にもどり二日目のホームステイ、ホストファミリーの迎えを待つ。昨日とはまた違った安心した笑顔でみんな出発して行った。

3月30日(土)

●南昌～北京

6時10分、ホストファミリーからいただいたたくさんのお土産を手に、みんな友好会館にぞろぞろと集合。保険証を忘れた団員がいて取りに行き行って貰ったため6時40分出発。別れが辛いと泣いている団員と豫章中学校の生徒さん。出ていくバスに一生懸命手を振っているホストファミリーの皆さん。目が潤んでくるのが分かった。早朝の南昌は深い霧に覆われていた。整備された高速道路を通過して昌北空港へ。空港には外事弁公室の張知明主任と対外友好協会の胡軍華秘書長が見送りに来ていた。8時05分発北京行きのMU5149便に乗り、2時間足らずで中国の首都北京に着いた。観光バスに乗り、北京でのガイドの王旭さんの紹介を聞きながら、建設中のアジア一の住宅団地（80万人入るとのこと）や立ち並ぶ高層ホテル、伝統ある建物などを横目に、天安門



故宮博物館にて

・故宮博物館へ。時々通る埃をかぶる乗用車から、つい最近北京を襲った黄砂の凄さを垣間見ることができた。桃紅柳緑の公園や街角では太極拳や青空散髪している人たちをみて、こちらの時間がゆっくりと流れているなあと不思議な気がした。

天安門広場でまず全員ハイポーズしてから故宮博物館へ。文物保護のため柵の外から中をみることしかできないが、屋根の動物や人形の数により、その建物の重要さが分かるとか、大きな甕は消防用とか、王さんの案内にみんな興味津々。途中気分が悪くなった団員がいて、須田看護婦さんと陳さんが温かく見守った。

昼食の後お待ちかねの万里の長城へ。長城あたりの山には山桜がかすみに咲いていて、みどりの少ない山に早春の息吹を感じさせる。故毛沢東主席曰く「不到長城、非好漢」（長城に行かなければ、立派な人にはなれない）。何回も「好漢」になった何燕萍を麓に残し、みんな元気に男坂か女坂に挑戦。登りきった感動がまだおさまらないうちに、長城の土産店で値段の交渉が始まり、それぞれ好きな記念品を手に入れる。

夕食は本家本元の北京ダック。第10回のように激しい生存競争が起こらなかったが、さそりのから揚げが出たとき、我先にと、ためらいながら、口にしたりと、さまざま。面白い体験になったことは間違いない。ダックを満喫（より食べた）した後、食事を終え、宿泊のホテルにチェックインできたのは、すでに夜の9時ごろでした。



万里長城にのぼった！

3月31日(日)

●北京～高松

朝6時30分にチェックアウトを済ませ、慌ただしく北京友誼飯店を後にした（夕べチェックインするまで、ホテルが変わったことは一切知らされていなかった）。朝食はホテル側が用意してくれたものをバスの中でということであったが、全然口にできなかった団員もいる。上海から北京空港では、全行程を共にしてくれた陳さん（南昌市外事弁公室職員）と王さんになごりを惜しみながらのお別れ。

北京空港の人ごみの中で搭乗手続きを済ませホットしたのも東の間、今度は出国審査の長い行列に啞然して、あせりを覚えた。やっと安全チェックも終わり、急いで搭乗ゲートへ。席に着いたのは、出発の定刻時間の5分前。（まだ搭乗していなかったお客を待つため定刻より15分間遅れて9時40分にやっと離陸）。

離陸は遅れたが予定より早く13時10分関西空港に到着。入国手続き等を済ませ、14時50分出迎えのバスに乗って一路高松へ。淡路パーキングで休憩をした時、恋しくなった故郷のうどんやたこ焼きなどを久しぶりに食べて、幸せいっぱいな団員の笑顔が印象的でした。午後6時30分頃高松に到着して、一同は出迎えの人たちと明るく再会。彼らの元気な笑顔が21世紀の日中交流に生きていくことを期待しながら、使節団は解散した。

# 感 想 文

## 本物の感動体験とは



高松市教育委員会教育部  
学校教育課 指導主事  
臼井 隆

今でも第1回事前研修での松井係長（昨年度の団長）の言葉が心に残っている。

「いい仕事の前にはいい準備がある。」「見ようとしないうものは見えない。」

この2つの言葉が常にプレッシャーとなって私に押し掛かっていた。自分も学校現場ではよく似た言葉を使っていたが、今回その言葉が自分に振りかかっているのである。

訪中までの2か月間で自分自身どんな準備ができるのであろうか。また、団員の意識をどこまで引き上げることができるのか。自問自答の日々が続いた。幸い同行職員の何さんが中国出身であることが、中国滞在中の不安をいくらか和らげてくれた。

今回の訪中で、自分に課した言葉がある。

『知識なくして本物の感動はなし。感謝なくして成長はなし。』

この言葉のもつ意味をどれだけ子どもたちに伝えることができただろうか。

「きれいだな。大きいなあ。」という感動だけでなく、そのものの本質を見る（考える）力が育ってほしい。その為にも、中国の歴史や文化、見学する場所や日本とのかかわりなど事前調べが十分に必要である。また、人は必ず支えあって生活しており、決して一人ではない。そこには、お互いを思いやる心や感謝する心が大切である。今回の訪中のためにどれだけの人がかかわり準備をしてくれたか気づくことができただけであろうか。ほんとうに反省するときりがない。

訪中を終え、関西空港から高松への帰路の途中に、使節団全員で『訪中で得たもの、反省点』という題で一人一言タイムを持った。それは、訪中の感動が冷め止まぬうちに心に刻んでおきたかったからだ。

(Aさん)「訪中で一番印象に残っているのは、ホームステイです。最初は不安でいっぱいでしたが、家族の方が優しく接してくれました。一生懸命に英語で話しかけてくれるのですがわかりません。英語の単語を話しても通じません。もっと勉強しておけば心から通じ合えたかもしれません。後悔が残っています。」

(Bさん)「南京路で集合時間に遅れてごめんなさい。みんなが心配して声をかけてくれたり、温かく迎えてくれたのに、その時は何にも言えませんでした。だから今言わせてください。」

一人ひとりが一生懸命に語っている姿を見て、胸に熱いものが込み上げてきた。

「みんなは95%の素晴らしい力と5%の妥協する心を持っている。その5%を振り返りほんとうにこれでいいのかと考えることができた時、実際に体験したことが150%にも200%にも本物の感動体験となる。」

6日間本当に楽しかったよ。みんなありがとう。

最後になりましたが、南昌外事弁公室の陳さんをはじめ、ホームステイでのホストファミリーのご家族や各機関の方々にたいへんお世話になりました。そしてなにより同行いただいた何さん、須田さんお疲れ様でした。



李豆羅南昌市長表敬訪問

## 出会えた方々に感謝



高松市民病院看護婦  
須田 まゆみ

第11回中学生訪中親善使節団、5泊6日の中国。事前研修から始まってたくさんの方々に出会うことができ、貴重な体験をさせていただきました。南昌市での市長表敬、豫章中学校訪問では心温まる歓迎を受け胸が熱くなりました。同時に使節団の使命を改めて感じる次第でした。事前研修でテーマが三つ設定されていました。①中国を知り日本を知ってもらう。②国境を越えた中学生の友情の輪を広げる。③現在の自分を見つめ、未来に羽ばたく。個人テーマとしても私は③を設定しました。しかし、引率としての使命は団員の健康管理。「みんな元気で役目を果たすことができ無事、帰ってこれますように。」出発前に近くの神社をひそかに参拝しました。

中国の広い国土・悠久の歴史・文化・人々の暮らし・街並み、想いをはせていよいよ出発。関西空港から上海・虹橋空港に降り立った団員たちを、陳さん、ガイドの朱さんが雨の中笑顔で迎えてくださいました。雨にけむる東方明珠塔をはじめ高層建築群、きらびやかな夜景が異国情緒にあふれていました。一夜明け、夜とは違った上海の街。上海動物園、上海博物館への道中も人・車・自転車のエネルギッシュな波に皆一同、圧倒されてしまいました。夜、上海を後にして夜行列車で南昌へ。残念ながら翌朝の南昌も雨にけむっていましたが、車窓からは緑美しい農村風景が広がり草を食む牛の姿も見ることができ、とても懐かしく感じました。豫章中学校では生徒との交流会の後、学校内、授業の様子を見学させていただきました。交流会での活動や授業を受ける姿は、どの生徒も真剣で生きいきとした印象を受けました。このころから中国の食事に慣れてきたのでしょうか。南昌では特に青野菜がとてもおいしく、日本の食事より健康的であるようにも感じました。旅行中、私の元気の素は中国の野菜からもらったようです。

後半からは良い天気になりました。南昌を後に最後の訪問地、北京へ。北京空港から市中心部に向う高速道路沿いの景色は南昌と違って緑は少ないけれど、市内に入ると桃の花があざやかに目に映り、北京は思っていたより明るい雰囲気でした。前日は大変な悪天候で交通事故も多かった、ということ流暢な日本語が印象的なガイドの王さんより聞きました。天安門広場、故宮、そしていよいよ万里の長城へ。勇気を出して男坂へ出発しました。登りつめた時の爽快感は格別のものでした。また、団員や団長先生の童心にかえったような無邪気な姿をみて、訪中団に参加して本当に良かったなあ実感しました。

短い期間でしたが中学生たちの元気さ、たくましさや教えられたこと、救われたこともあります。大きな病気やケガもなく一緒になって訪中を楽しむことができました。中学生のみなさんありがとうございます。今後の活躍を期待しています。

最後になりましたが、今回の訪中に際し、最後までご配慮くださった陳さん、張知明さんはじめ南昌市外事弁公室の皆様、中国で出会った方々に深く感謝申し上げます。そして研修中からお世話になりました、高松市国際交流協会・高松国際交流室の皆様、白井団長先生、何燕萍さんに心からお礼申し上げます。



万里の長城にて

## 印象にのこった学校訪問



(財) 高松市国際交流協会  
事務局員

何 燕 萍

仕事柄から中学生訪中親善使節団の写真や帰国報告書を毎回見させていただきました。そしていつか若い世代と同じ感動を共にできたらと思うようになりました。そして、今回は協会の事務局として第11回中学生訪中親善使節団に参加できて本当に嬉しく思いました。

三回目の事前研修会を終え、大勢の方々に見送られる中、わくわくと未知の世界への期待と不安を抱えている10代の団員と出発のバスに乗り込んだ時、その嬉しさが強い責任感に変わっていたことをしみじみと感じました。

6日間の訪問で友好都市南昌をはじめ、上海・北京も訪ねましたが、一番印象に残ったのは豫昌中学校での交流です。豫昌中は中学と高校を合わせて在校生が3千人以上もいる学校です。校内には大きな花壇と噴水があり、掲示板には、仕事と勉強を讃え、表彰された先生と生徒たちの写真が掲げてあります。ホームステイの翌日なので、バスが着いたら、もうホームステイ先の生徒が迎えにきていました。そして、兄弟のように手をつないで交流のステージとなる大会議室へと案内してくれました。なんと微笑ましい風景。豫昌中学校生徒の歌や踊りと書道の実演に感心しながらこちらもベストを尽くそうと、みんな一生懸命になりました。中国にないビンゴゲームは校長先生を初め、全員が参加して盛り上がりました。○×クイズでは、難しいと思ったドラえもん等の質問も正解率が高く、日中間の文化浸透がうかがえました。(上海で迷子になった団員3人は書店で買ったのはクレヨンしんちゃんの中国語版だった。)高松踊りでは練習時の「ごこちない踊り」と打って変わって最高の出来となりました。授業風景の見学では、教室に入って中国の生徒と握手を交わしたり、みんなに「おっはー」の挨拶を教える団員の姿を見て、みんなは、もう親善大使そのものではないかと心から嬉しく、またこういう場面に出会えて、こういう仕事に携えられることは本当に幸せだなあと思いました。「未来は若者にあり」ホームステイや学校訪問の時に芽生えた友情の種はみんな大事に育て、綺麗な花を咲かせてくれることを願っています。



上海南京路

6日間の旅は短かったですが、感受性豊かな団員20人にとって中国の歴史や文化風習に触れたこと、また同世代との交流などを通して得た刺激や感動は人生の宝となることでしょう。そして、子どもたちにはこれからの日中間の懸け橋となってくれることを願っております。

元氣いっぱい団員、団員を温かく送り出してくださった家族のみなさま、中国での手配してくれた南昌市政府の方々、一緒に同行していただいた臼井先生と須田さんに「ありがとう。謝謝！」。

## 感激ばかり中国の旅



高松市立太田中学校  
伊川 ゆりえ

中国って最高！何より友達がいっぱいできてその友達と一緒に中国のいろんな所をまわられたのがとても心に残りました。

バスに乗る前アイバルの前で集合していた時、友達ができるかなあ、どんな所が見れるんだろう、ホームステイうまくいくかなあ、私の心の中はこんな不安でいっぱいでした。でも、バスに乗っている人と話しているうちにこんな不安を抱いていたことを自分でもすっかり忘れてしまっていました。

私は学校の勉強で社会はあまり好きではありません。でも、中国について学んでいる時、教科書に出てきた“万里の長城”を見て、生きているうちに一回は見てみたいなあ、と思いました。そしてその夢がかなう瞬間が来ました。

「すごい・・・」万里の長城を見て思わず出た一言。ほかに言い様がありませんでした。大きい、と言うよりも長い。想像以上の大きさ、長さには私は圧倒されました。下から見上げた時、あんなに急な坂を登るの？途中でダウンしてしまいそう、私はこんな気持ちでした。でも、いざ登り始めるとやっぱり上に見えるみんなが目指しているところまで私も行きたい！と思ってがんばりました。途中ですごくきつい階段や坂道があったけど、その分登りきった時はすごく感動しました。それに、上から見た景色は最高でした。日本にいただけではこんな感動は得られなかったと思います。

そして、もう一つ私の心に残ったこと、それはなんととっても南昌でのホームステイです。家族の方々に温かく迎えられて始まった二日間のホームステイはとても短かったけど深く心に残っています。友好会館で初めてあった家族たちと家に向かう車の中。はじめは何をしゃべっていいかわからなくて沈黙が続いていたけど中国の子の方から私に話しかけてくれてだんだん会話がはずむようになりました。そして、家に着いてすぐ「あなたの友達に電話をかけてあげる」といわれてわけがわからないまましていると電話をいきなり持たされました。なんとその電話の相手は一緒に日本から来ていた使節団の1人でした。私は、その電話のおかげで緊張がほぐれて家族の方とすごく楽しいおしゃべりができました。2日目のホームステイではお友達も来ていて夕食の後散歩に行きました。とてもきれいなイルミネーションで街が飾られていてすごくビックリしました。商店街っぽいやつを歩いていたら友達にたくさん会いました。私も友達もみんな同じだと思うけど。私たちが制服のスカート、素足にソックス、という服装で歩いているとすごくまわりの人の注目を集めました。中国では冬にスカートをはく人はあんまりいないそうですね。日本では普通なんだけどなあ。途中でたこ焼き屋さんがあってびっくりしました。しかも、ちょうちん（お店の看板の変りのようなもの）に日本語で「たこやき」と書いてありました。中国から日本に伝わってきたものはすごくたくさん見るけど、日本から中国に伝わったものを見ることはなかなかないので、いいものを見たなあと思いました。

私はこの研修でたくさんのことを学びました。それは、中国のことであったり、自分の中で成長したことであったり、いろいろです。でも、ただ一つはっきりといえることは、中国に訪中使節団員として行けてよかったということです。私がこの研修を成功させることができたのは団長先生をはじめとするたくさんの人のおかげだと思っています。ほんとうにありがとうございました。そして、中国のみなさん、謝謝。



ホストファミリーで中国の中学生たちと

## 中国に行って成長した私



高松市立山田中学校  
岩田 祐佳梨

私を受け入れてくれたホストファミリーは、<sup>ジュンメイ</sup>周玖という同い年の女の子と両親、おじいちゃん、おばあちゃんの五人家族でした。それから、私にはたくさんの中国の友達ができました。それは周玖のクラスメイトの子たちです。みんなは私が家に入ると同時に拍手でむかえてくれました。そして、私にたくさんのプレゼントもくれ、とても歓迎してくれました。一日目はいっしょに写真を見たり、中国の遊びをしたり、歌を歌ってくれたり楽しい時間を過ごしました。けれど、相手の英語が早くて聞きとれなかったり、自分が伝えたいことをうまく表現できなかったりとあまり上手に英語で話せませんでした。そして、その夜は、こんなんじゃいけない。もっと中国のことがたくさん知りたい。もっと日本のこともたくさん教えてあげたい。だから、明日はもっと積極的に話をしよう！と心に決めました。

次の日の朝は周玖が早く学校に行ったので、私はお母さんやおばあちゃんたちと話をしました。周玖以外の家族の人は英語が話せないので、ジェスチャーや漢字を書いて話をしました。少しずつではあってもお互いに伝えたいことが分かりあえてうれしかったです。

夜になると、またクラスメイトの子がぞくぞく来てくれて夜の南昌の街を案内してくれました。昨日の反省をいかして、どんどん積極的に話をしました。そうしているうちに、相手が言っていることがすぐ聞きとれるようになってきて、会話もスムーズにできるようになりました。私の英語力もこれを機会に少し上達したような気がします。

私たちは、すべて英語で話をしました。中国語でもなく、日本語でもない英語です。そのことに私は感動しました。違った国の人どうしが通じあえる言葉があるということに。その時、改めて英語の大切さに気づき、英語を、もっと、もっと勉強しなければならないと思いました。

向こうの中学生は本当に英語が上手です。特に発音がきれいで、私なんかまだまだだと、思っていました。しかし、向こうの子が私に、「あなたは英語が上手だね。」と言ってくれたのです。当然その子の方が上手です。でも、そう言ってくれたことに私はうれしくてなりませんでした。

私は今回、中国に行けて本当によかったと思います。これを薦めてくれて、中国に行かせてくれた家族。この訪問をよりよいものにとがんばってくださった臼井先生、須田先生、何さん。私をやさしく受け入れてくれたホストファミリー。いっしょに助け合ってきた団員のみんな。この訪問が私にとってよいものとなったのも、こういったたくさんの人のおかげです。

みんなありがとう



周玖のクラスメートと一緒に



## 中華料理とホームステイ



高松市立龍雲中学校  
上原由紀



ホストファミリーのユエンちゃんたちと一緒に

あり、高松とあまり変わらない気がしました。「ここは中国だな」と感じたのは、やっぱり料理でした。本場の中華料理は、今まで食べたことのない不思議な味がするものばかりでした。見たこともないような食べ物も、自分から進んで食べていたけど、最後の日になると、イヤになりました。特に三日目の夜、スッポンとカエルが料理に出てきたときは、みんな声が出ませんでした。中国の人にとっては普通のことかもしれないけれど、私にとっては信じられないことでした。このとき、中国と日本の食文化の違いを感じました。

この旅で、行く前に一番不安だったのはホームステイでした。友達と離れ、一人でホストファミリーの家へ行かなければならないからです。私にとって初めての外国でのホームステイ。「どんな人の家へ行くのかな。」と楽しみでもあり、不安でもありました。だけど、私を迎え入れてくれたホストファミリーのお父さん、お母さん、ユエンちゃんは、本当の家族のように接してくれ、とても親切な優しい人たちでした。ユエンちゃんとは、自分の趣味や学校の話がたくさんしました。お父さんとお母さんは英語が通じないため、辞書で調べながら言いたいことを伝えました。ホームステイ二日目の夜、お父さんが辞書で何かを調べて見せてくれました。それには、「また、お会いしたいです。」と書いていました。それを見たときは感動して言葉が出ませんでした。ホストファミリーとのお別れの日、この日はいつもより会話が少なくなような気がしました。バスに乗る直前、お母さんとユエンちゃんが泣きながら中国語で何かを言っていたけど私には何を言っているのか分かりませんでした。だけど何か伝わってきました。私も泣いていたので「謝謝。」としか言えませんでした。何か伝わってればいいなと思います。

この旅行は、私にとって一生の思い出です。引率の先生、ホストファミリーのお父さん、お母さん、ユエンちゃん、本当にお世話になりました。「謝謝。」

## 不 安 と 安 心



高松市立桜町中学校  
右 川 貴 子

私は、この一週間の旅行の中で一番ホームステイを楽しみにしていました。

しかし、「ホームステイは一家に一人。」と聞いて、「言葉も通じないのに、一人で本当に大丈夫なのだろうか。」と旅行中ずっと不安な気持ちでいっぱいでした。

そして、不安な気持ちのままホストファミリーの家へ行きました。

その日の夜はホストファミリーの人たちがいろいろすすめてくれたり、気をつかってくれたり、英語で話しかけてくれたり、と本当にやさしくしてくれて、とてもうれしかったです。

しかし、私は、英語で話しかけられてもどんな意味なのか分からないことが多く、分かっているけどどうしても答えを声として出すことができませんでした。

なので、その日は、あいまいに笑いかけただけで、しゃべったとしても『Yes』と『OK』ぐらいしか言えませんでした。

そして次の日、友好会館に行くと、みんな楽しそうにホームステイのことを話していました。

聞いてみると、「おそくまでホストファミリーの子と一緒にゲームをしたりして遊んで楽しかった。」などと言っていたので、「どうしよう・・・私だけホストファミリーの子と仲良くなれなかったのかなあ。」とメチャクチャ不安になりました。

そしてホームステイ二日目、不安をかかえたままホストファミリーのもとへもどりました。

すると、ホストファミリーの子（アイチン）の友達遊びに来ていました。

そして、しばらく三人で遊んでいると、なぜか分からないけれど、すごくなごんできて、昨日とちがって口数も増えてきて、しまいには三人で走りまわって遊んでいました。

それから、八時ぐらいになると、ホストファミリーが街へつれていってくれました。

すごく楽しくて昨日の不安だった気持ちは全然なくなり、安心な気持ちでいっぱいになりました。



ホストファミリーのアイチンさんと

- 最後に私はこのホームステイを通して、
1. 言葉が通じなくても、最初気まずくとも一緒にいると仲良くなれる。
  2. 不安と安心は紙一重。  
ということが分かりました。  
最高の思い出になりました。

## 「異国の地での六日間」



高松市立桜町中学校  
岡 根 由 佳

3月26日晴れ、私は飛行機に乗って生まれて初めての異国の地、中国へ旅立ちました。二時間ぐらい乗って、ふと窓の外に目をやると、中国の景色が私の目に映りました。広い道路、土地、田んぼ…。早く飛行機から降りたくてたまりませんでした。これから六日間の間中国で過ごすかと思うと胸がドキドキと高鳴りました。移動のバスの中で見た上海のビル街、きれいなライトの看板、たくさんの見たこともない漢字。初めて食べた上海料理、見るもの全てが新鮮で今も私の心に残っています。

二日目、27日。この日は六日間のうちで忘れられない重要なできごとが起こりました。上海見学で最後に行った南京路。まさに大都会で、日本でいう東京や大阪のような感じの所で、たくさんの店が立ち並び、人や自転車がたくさん通っていました。

「集合時刻に遅れないように。裏通りの方へは行かないように。」

と、何度も言われたので、自分でも分かっていたはずなのに、友達と本屋の場所を中国の人に聞いたり、地図を描いてもらって搜しているうちに、いつの間にか裏の方まで来てしまったようでした。うす暗くて、あまり舗装もされていなくて、工事現場もありました。数メートルおきに立っていたガードマンの人、英語で教えてくれたおばあさん、いっしょについて行ってくれたお店の人。言葉が通じないのに、優しくしてもらってとてもうれしかったです。あの人達がいなかったら多分ずっとあそこでさまよっていたと思うし、二人の友達がいたからこそ、めげずががんばれたんだと思います。心配をかけた同じ使節団のみんな、何さん、白井先生、この場を借りてあやまりたいです。ごめんなさい。でも、みんなの姿が見えた時、会えて良かったと思ってすごく安心しました。

三日目、四日目はホームステイでした。私は程夢雨という女の子の家に泊まりました。私が何を話せばいいのか困っていると、たくさん英語で話しかけてくれました。分からない言葉もたくさんあったけれど、ノートにつづりを書いてもらい辞書で調べたりもしました。会話ができない時は身ぶり手ぶりで伝えたり、表情で判断しました。笑っている時、困っている時の顔はどこの国へ行っても同じなんだなあと感じて、だんだん緊張も溶けてきました。たったの二日間だけだったけれど夢雨の家族の一員になれたような気がしました。

今回の中学生訪中親善使節団の団員として過ごした六日間で本当にたくさんの事を学び、体験してきました。歴史、経済、食文化、建物…。日本とは全く違うものばかりですが、周りの国の良い所を少しずつ取り入れ、それを独自に組み立てていった点は日本とよく似ていると思います。

これからも両国が互いに足りない部分を補いあい、私たちがそのかけ橋になれたらいいと思います。そうなれるように私もがんばっていきます。



豫章中学校で程夢雨さんと

## 長かったようで短かった六日間



高松市立玉藻中学校  
小山達也

この六日間は一生忘れることができないと思います。そして、数々の思い出が残りました。一番に、アイバルに集合した時、「ついに始まる。」という気持ちになりました。そして、学校が違い、面接で初めて会った20人とうまくやれるのかという緊張感もありました。

そして、関空を飛び立って1時間45分後に上海に着いた時は、雨が降っていました。しかし、漢字ばかりの標識で、中国にいる感じがしました。そして、初めての中華料理は、とても油っこくておいしかったです。しかし、この後ラーメンは一度も現われなかった。

上海の観光の時、朝の自転車ラッシュ、人の多さにびっくりしました。そして、パンダはとてもかわいかったです。また、東方明珠塔は、とても高かったです。

南京路では、みんな平気で赤信号なのに車道を渡っていました。なんのために信号があるのだろうと思いました。

南昌へ向かう時、列車の写真をもう少し撮りたかったけど、団体行動では、やはり無理でした。でも、車両性能は、中国でもかなりよくなっている感じでした。スピードも、120kmくらいは出ていると思います。

南昌に着いた時、隣のホームからは、北京西行の列車が発車していました。あの長距離を鉄道で行ったら、どのくらいの時間がかかるのかと思いました。

南昌では、市長を表敬したり、中学校を訪問したりと、使節団として、忙しかったです。

そして、ホームステイでは、ホストファミリーの張君が、10人以上の友達を連れてきたので、驚きました。そして、2日で山ほどのプレゼントをもらって、持って帰るのが大変でした。そして、お父さんはとてもやさしくしてくれたので、ぼくは、安心して過ごすことができ、二日間で19時間半も寝てしまいました。楽しいホームステイになりました。

ショッピングでは、オレオクッキーや、カップヌードルの中国版を買いました。

そして、最後の訪問地、北京に着いた時、だんだん終わりが近づいていることを実感しました。

そして、故宮へ。歩いたら1時間もかかる広さでした。こんなに広いなんて思ってもいませんでした。

万里の長城は、快晴で、人もたくさんいました。男坂を登ったけれど、すごい急でした。降りる方が楽かもしれないと思うけど、降りる方も、足を踏みはずしたらおしまいという感じでした。

ホテルでは、今までよく寝ていたのが、徹夜をして、トランプをしていました。

次の日は、やはり飛行機の中で寝てしまい、気がついたら、そこは関西空港。あっけなく中国の旅は終わってしまいました。そして、アイバルが近付くにつれ、もうすぐ解散する気持ちになり、ついにアイバルで第11回中学生訪中親善使節団23人は解散しました。

僕は、この六日間で、ホームステイなど、貴重な体験をしました。最後に、白井団長および同行者やホストファミリーに、もう一度お礼を言います。

僕は、今でもこう思っています。「もう一度、この20人で中国へ行きたい…。」



ホストファミリーの張君と友人達

## 私の中国交流



香川第一中学校  
笈 美里

この中学生訪中親善使節団は、私にとって初めての海外旅行でした。不安と楽しみを胸に抱え、以前習っていた時の中国語の教科書とカセットテープをとり出して復習を始めました。実をいうと、今回は「中国語で会話をする。」というのが目標でした。だから、豫章中学校とホームステイがとても楽しみでした。

二十八日夜、待ちにまったホームステイ。胸の高なりをおさえられず、スーツケースの取っ手をおもいきりにぎりしめていました。私を迎えてくれたのは黄思田という一歳年下の女の子でした。第一印象を大切に、と思い、笑顔で「你好。」その後、車の中で自己紹介。初めは中国語で、理解されなかったような部分は英語で。その時びっくりしたのが英語がとても上手だったということ。英語で会話をしているときは、中国人とではなくアメリカ人と会話しているような気がしました。

家につくと、黄思田さんのお母さんとクラスメイト三人が歓迎パーティーを開いてくれました。ここで「さすが中国！」と思ったことがひとつ。果物をくれたけれど、それが、日本ではあまり(?)食べないようなマンゴーやライチなどでした。それから、不思議に思ったことがひとつ。プレゼントをもらったとき、それがうさぎの貯金箱と置き物でした。黄さん一家の家には不思議なくらいにうさぎグッズがたくさんありました。今年の縁起物かなと思いました。(聞きたかったけど言葉が通じず聞けませんでした。残念…)私は黄さんに文房具と携帯ストラップ、コアラのマーチをプレゼントしました。ほかの何よりもコアラのマーチを喜んでくれました。中国にない種類の味だったのかもしれませんが。

ホームステイ先ではいろいろな日本と違う文化を知ることができました。まず、お風呂とトイレと洗面所が一緒になっているということ。(日本ではホテル以外ではめずらしいと思う)そして、浴槽がないこと。湯船に入るのは日本人ぐらいと聞いていたけどまさか浴槽がないとは思いませんでした。それから玄関がないこと。日本のように段差のある玄関ではなく、ただじゅうたんが敷いてあるだけでした。もうひとつは学校生活。日本以上に教科書が厚く、その上宿題が多いようです。日本より勉強時間が長いと聞いていたけど、ひまさえあれば教科書を読んでいるとは思いませんでした。

——と、ホームステイでは驚きと感動ばかりでした。楽しかったこと、心に残ったことがたくさんありすぎて書ききれません。

中国で少し中国語を覚えることができました。その中でも一番心に残っている「朋友」という言葉。日本語に直すと「友達」という言葉です。これは黄思田さんが教えてくれた言葉で二日間のホームステイですと私に言ってくれました。言葉に表せないほどうれしかったです。国がちがっても友達になれるんだと思いました。この友情がずっと続くようにしたいです。

最後に、わたしはこの中学生訪中親善使節団に参加できたことを感謝しています。ほかでは経験できない貴重なことを経験することができました。六日間私のことを支えて下さった白井先生、須田先生、何さん、団員のみなさん、そして中国に行くことに背中をおしてくれた両親、ありがとうございます。謝謝。

また中国に行けることを願って。再見。



朋友の黄思田さんたちと

## 宝物になった体験



附属高松中学校  
冠野 美由希

中国での6日間は、私にとってとても大切な宝物になりました。その中でもよく心に残っている事が4つあります。

まず1つは万里の長城での事。万里の長城は教科書の写真からはとても想像できない壮大さでした。私はちゃんと登れるのかどうか、という不安を胸に、男坂を登り始めました。男坂というだけに、坂はものすごく急でしたが、思っていたより距離は短かったので、そんなに疲れませんでした。“人の手”で作られた万里の長城からの景色は、とても華艶でした。前から登ってみたいと思っていた所なので夢がかなって本当にうれしかったです。

2つ目は交通の面の事。日本では歩行者が優先なのに、中国では車と自転車がどンドンつっこんで来てそれどころではありませんでした。しかもみんな信号無視しまくり。おかげで自転車にひかれた人も。この事には、かなりのショックをうけました。

3つ目は一番楽しみにしていたホームステイでの事です。相手の子は私と同年。なのに、比べものにならないほど英語が堪能でした。私は英語の発音が悪くてなかなか相手に言いたい事が伝わりませんでした。「伝えたい事はたくさんあるのに。」と、くやしい気持ちでいっぱいでした。この時ばかりはもっと勉強しておけばよかったと後悔してしまいました。しかし、ホームステイの家の方は、私のジェスチャーや絵を見て、私が言いたい事を一生懸命理解してくれようとしてくれて、本当にうれしかったです。言葉は通じないけれど、心は通じるもんなんだ。と感動でいっぱいでした。たった2日間のホームステイだったのに、お別れの時は涙が止まりませんでした。ホームステイでお世話になった方々に“謝謝”

4つ目は、この6日間できた、たくさんの友だちの事。同じ学校の子が一人もいなくて、これでみんなと仲良くなれるのかなあと、正直言って心配でした。でも一日中同じバスや飛行機に乗って、一緒に歩いて、一緒に御飯を食べて、一人、また一人と仲良くなることができました。このおかげで、自分でも積極的に行動できるようになったと思います。



ホストファミリーの双昶さんたちと

この「中学生訪中親善使節団」に入って、いろんな中国の文化や歴史を見たり、聞いたりして、中国という国に一步近づけたような気がしました。それができたのも、6日間の間に少しずつ、少しずつ成長していたからだと思います。私はこの貴重な体験をこれからの学校生活や、家ででの生活に生かしていきたいと思います。そして、これからも中国だけでなく、いろいろな国に目を向けていきたいと思います。

最後に、素晴らしい時間を共にすごしたみんな、先生方、いろいろとお世話になった中国の方たち、「麻煩您了。」

## 中国は温かさでいっぱいだった



高松市立桜町中学校  
松村 さ り

旅立つ私の胸の中は、うれしさと不安でいっぱいでした。日本を離れて青い空に旅立った飛行機は私たちをのせて異次元に旅立った。そして着いたのは上海。中国は日本の約26倍ぐらいと学習していたけど、想像以上の広さに息をのみました。街は人や自転車であふれていました。故宮、天安門広場、万里の長城…これは中国にしかないもの、あるいは風景、私の目にしっかり焼きついています。不安な気持ちはすぐになくなり、中国の街を散策しました。かわいいアクセサリやキーホルダー、おいしそうな中国料理…一つ一つのお店に入って見るたびにわくわくして、日本にいる家族や友達への土産を選びました。その時に、片言の中国語と英語で私と友だちとで値切ることになりました。かわいいピンバッチが最初は40元だったけど、「15元？」ときくと初めは「No-No」といわれてあきらめて、店を去ろうとするとお店の人が「15元でいいよ」と日本語で言ってくれました。それからずっと値切ってから買い物を続けました。街の人たちは、「ニーハオ」と声をかけると笑顔で「ニーハオ」と応えてくれました。そして一番心に残り、感動したのは、中国の友だちとの交流とホームステイでした。そしていままでいっしょにいた仲間と2日間離れることになりました。その時私は、日本を出発した日のように不安でいっぱいでした。1日目、英語、中国語でお母さんと話をしたりしたけど言葉が通じずお母さんは首をかしげました。その時私はどうすればいいか分からないほどでした。そうした1日も終わり、2日目、中国の学校の子と交流しました。踊りや劇の見せ合いの時、ある女の子がその演技に使う道具で遊んでいると、いろんな人があつまってきてインタビューや写真を撮りました。そんな時も終わり、2日目のホームステイです。日本の物をプレゼントしたり、その物の遊びを知ってもらおうと福笑い、万華鏡、紙ふうせん、しゃぼん玉を持っていきました。とくにその中でも一番よろこばれたのは福笑いです。

言葉のかべはほんとうに高いことを知りました。でも中国の人たちは本当に心が温かい、笑いがたえない、それだけでなんだか安心しました。中国は土地が広大なうえに人の心で1番大切な「ハート」と出会えました。人と人との間でなくてはならない大切なことに気づかせてくれた中国、ほんとうに「謝謝。ありがとう」。いつになるか分からないけど、また中国に行って楽しい旅行をしたいと思います。貴重な体験をありがとうございました。そして、こんな体験をさせてくださった先生方ほんとうにありがとう。

「謝謝！」

これからもがんばって交流ができる大人になりたいです。



南昌市内の写真店にて記念写真

## 楽しかった6日間



高松市立鶴尾中学校  
河野正和



八一起義記念館前にて

今回、中学生訪中親善使節団に参加する事が決まって、僕にとっては、2回目のホームステイなので余裕かなと思っていただけ、関西空港についてから、なんともいえない不安を感じて、ドキドキしていました。でも、上海空港におりたった時、不安を感じるより、街の風景を見てびっくりしました。僕がイメージしていた中国とはぜんぜん違っていたのです。僕はもっと古いれんがで造られていて、低い屋根が並んでいるような所だと思っていました。でも、現実には、高いビルがたくさん並んでいて驚きました。

この日は上海をすこし見学して、夕食を食べに行きました。みんなは、「おいしいー」と言っていました。僕はからくて味がぜんぜん

分かりませんでした。でも、焼き飯のような物は、とてもおいしかったです。翌日も上海を見学し、いよいよ夜行列車で、南昌へと向かいました。

次の日、朝から南昌の名所などを見学しました。その夜は、この旅行の中で一番不安だったホームステイでした。最初は言葉が通じるかどうかとても心配でした。でも、その心配は、ホストファミリーの人達が、かき消してくれました。ファミリーの人達は、心配しておどおどしていた僕に優しくにっこりして英語で話しかけてくれました。

翌日、訪れた市内の中学校では、僕たちを大歓迎してくれました。学校の教室では、僕と友達で「おっはー」を広めました。みんなうまく発音できて、動きも良かった。その後、いろんな所を見学して、その施設のすごさや校内の美しさに驚かされました。学校の施設は中国の方が進んでいると思い、少し悔しかったです。その後、市内を見学したり、買い物をしました。買う時には、言葉が通じなくても、値切れてうれしかったです。夕方、ホストファミリーが迎えにきてくれました。その後、家でファミリーの友人と食事を取り、写真を撮ったりしました。この日は2日目で少し慣れてきたから、うまく発音できない中国語と、片言の英語でいっしょうけんめい話をしました。翌朝、ホストファミリーと別れて最後の訪問地である北京へと飛びたちました。北京で印象に残ったのは、何ととっても万里の長城です。天気がよく、遠くまで見渡せる景色は最高でした。僕と何人かの友達は男坂を登りました。友達が走っていたので、僕も走ろうかと思ったけど、坂が急で、しかも階段の段差が高くて、ぜんぜん走れませんでした。こんなすごいものが本当に人間の手で造られたなんて信じられませんでした。僕は中国のスケールの大きさに驚かされるばかりでした。

この6日間は、僕にとって、とても貴重な6日間でした。数えきれないほどたくさんの事を学びました。また、言葉が通じないのに必死で僕に、色々な事を教えてくれたホストファミリーの温かさを感じとる事ができました。

この旅で、お世話になった交流協会や引率の先生方、ホストファミリー、そしてこの6日間をともに楽しく過ごした友だちに僕は感謝の気持ちでいっぱいです。僕が見てきた事、感じた事を、家族や学校の先生や友達に教えてあげたいと思います。日中国交正常化30周年でもある年に、中国へ行けた事は、小さいけれど僕なりの外交ができたように思います。本当にありがとうございました。



## 你好！中国！！



高松市立香東中学校  
里 益 実

「ああ、これが中国……。」  
街の看板はすべて漢字、聞こえてくる言葉は中国語、車のけたたましいクラクションの音、立ちならぶ高層ビル、光輝く色とりどりのネオン……想像以上に近代的だった。

そんな中国で私が特に心に残ったことが2つある。

まず1つめは、邱晨一家でのホームステイだった。

私のことや日本のことをたくさん質問してくれたので、ぎこちない英語やジェスチャー、筆談などを使って通じるように努力した。しかし通じないことも多く、自分の英語力のなさと、言いたいことが言えないつらさを痛感した。でも家族やクラスメイトはそんな私の言いたいことを理解しようとしてくれたので、緊張や不安も知らないうちに、どこかに行ってしまった。

ところで、1つ考えさせられる出来事があった。家に来ていた邱晨のクラスメイトの1人にこんな事を聞かれたのだ。

「あなたは10年後、まだ日本にいると思いますか？」

あなたならどう答えますか？私は「YES.」と答えた。理由はわからない。でもたぶん、10年後の自分なんて想像できないし、夢も持っていない。だからとりあえず、治安もよくて言葉も通じる日本で生きていたいからそう答えたんだと思う。

私より小さい12、13歳の子供が自分の10年後のことを考えている。

夢を持っている。

世界で働きたいと言っている。

うらやましかった。すごいと思った。そして、彼女のその夢がかなえられるような中国であってほしい。世界であってほしいと思う。

私は2日間という短かすぎる時間の中で、国も言葉もちがうたくさんの人々と出会い、わかりあうことができ本当にうれしい。こんなに充実した時間はいままでにあっただろうか。きっとこの出会いは私にとってすごくプラスになるだろう。

2つめの心に残ったことは、バスで移動中のことだった。

最初にもあるように中国は、ちょっと見た感じでは近代的だ。しかし、高層ビルからふと目をそらすと、崩れかけたり、屋根などに穴があいている家々があったのだ。日本的感覚からいくと、こんな家ではないと思うだろう。しかしそれがあの人たちの家なのだ。中国は表と裏の差が激しすぎると思った。

中国という国は、驚きの連続だ。車は止まってくれない。トイレは思わず鼻をつまんでしまう状態。街の人が不思議そうに見てきたこともあった。しかしそれは、日本という「ものさし」で中国を見ていたからだだろう。

中国での6日間、いろいろな人に出会い、お世話になった。たくさんの中国の顔を見てきた。いろいろなことを感じ、考えさせられたりもした。私は少しでも成長することができたと思う。だからもっと、もっと視野を広げて生きていきたいと思う。

最後に、こんなに良い経験をさせてくれたすばらしい人々へ……

「謝謝!!」 「ありがとう!!」



ホストファミリーとその友達

## 忘れられない思い出



香川誠陵中学校  
世戸大貴

僕はこの中国親善使節団でいろいろなことを学びました。まず1つは、友達のことです。

僕は今、私立に入っていますが、ここに来た僕以外の人は、公立の人でした。だから、私立以外の学校の友だちも増え、また先輩、後輩関係なく友だちとしてつき合えてよかったと思います。

次に僕は初めて海外旅行に行きました。それで、まず初めに向こうへ行って感じたことは、すごいたくさんのビルが建っているなあと思いました。これは、日本よりも発展しているのかなと思いました。しかし、今日本ではPS2やゲームキューブなどが流行していますが向こうでは、ゲームボーイとファミリーコンピュータしかありませんでした。

また、上海動物園はものすごく大きかったが、パンダやトラ、それにヒョウなどしかいませんでした。日本では、コアラやイルカやコウモリなどもいたけど、どうしてなんだろうと思いました。

それから、南昌へ行く時初めて夜行列車に乗りました。夜行列車のコンパートメントの中では窓がなく、酸素がうすく感じられ、また、その中は狭かったです。まるでスペースシャトルの中にいるみたい？でした。

そして、一番印象に残ったのは、ホームステイでした。初めどんな子かなと思っていました。そしたら友だちに似ている子がいるなど思っていたらホームステイ先の相手の子でした。その子とそのお父さんが来ていて、運転手さん!?!みたいな人も来られました。そして、僕もその親子と運転手さんといっしょに車に乗せてもらって相手の子の家まで行きました。その車の中では、相手の子の父親と運転手さんの会話はやっぱり中国語でした。僕は耳を傾けていても何を言っているのかわかりませんでした。するとその相手の子が、「Where are you going to?」と聞かれました。

そして、僕は、「I know where you to go」と答えると「Yes」と言ってくれました。向こうの家に着くと、まず家の大きさにびっくりしました。僕は、「Wow it a big」とおどろきました。そして、僕に向かって「こんばんは」と言ってくれました。僕はそのとき、「日本語しゃべれるの。」とうれしくなって聞き返しました。けれどもその時みんな僕が何を言っているのか分からなかったようです。でも、英語はその子たちとお父さんは少し、お姉さんも少ししゃべれるようでした。1人の子が少したってから、「Your classmate has come」といいました。そしたら下に、僕の友だちが来ていました。僕は近くに日本人がいるということで、すごくうれしかったです。その後はみんな、テレビを見ました。その時、日本のアイドルを聞くと、藤井隆さんや安室奈美恵さんや木村拓哉さんなどを知っていました。

それから、お別れの日になると、CDやスラムダンクの写真や、写真たて等もくれました。最後になりましたが、団長の臼井先生、須田さん、そして藤本さん、何さん、それから中国で会ったみなさん、家族のみんな本当にありがとうございました。

(原文のまま)



上海金茂大廈の前にて

## 初めての海外旅行in中国



高松市立玉藻中学校  
武田あや

私はこの中学生訪中親善使節団に参加できて本当によかったと思います。中国に行けるということが分かって海外に行くのが初めてなので本当に中国に行けるのかどうか不安でした。飛行機に乗ってもまだ中国に行っているのが実感できず言葉では表現できない気持ちでした。でも、とうとう飛行機を降りて周りを見ると、「中国にこれなんだ！」という気持ちになりました。とてもうれしかったです。その時は残念ながら雨でちょっとがっかりしたけれどうれしい気持ちでいっぱい興奮していたので、どっちでもいい感じでした。

中国についてからすぐ夕食でした。私は食事をとても楽しみにしていました。日本の中華料理とは全然味が違うと聞いていたので興味津津でした。6日間ずっと中華料理だったのでだんだんと中国の本場の味が分かってきて、慣れました。

一番印象に残った食べ物はホストファミリー先で出た「カエル」です。最初は何なのか分からなくて食べていて、後から聞くとカエルだったのでとてもびっくりしました。でも肉がとてもやわらかくてすごくおいしかったです。キュウリはホームステイ先やお店では全部皮がむいてあってやわらかかったです。

中国はとても自転車がなくてびっくりしました。交通ルールも日本とは違っているみたいで、自転車が車と同じ所を走っていました。

初めてのホームステイではとても不安がありました。友だちと離れて一人で知らない所へ行行って、中国語も基本的なものしかしゃべれないのにホストファミリーと仲良くなれるのか心配でたまりませんでした。

いよいよホームステイの日、私はとてもドキドキしていました。ホストファミリーの人たちが迎えに来てくれて女の子が私の手をつないで笑顔で車までつれていってくれました。

家に着くと女の子のクラスメイトの子がたくさん来てくれて私を歓迎してくれました。みんな私にプレゼントをくれたり水餃子を食べさせてくれて、とてもうれしくて感動しました。本当にみんないい人たちばかりでうれしかったです。みんなでダンレボ大会をしたりしてとても盛り上がりました。言葉はほとんどといっていいほど通じなくて英語でも私の発音が悪くて通じず、とても困り、もっと勉強しておけばよかったと心から本気で思いました。でもみんなが一生懸命分かろうとする気持ちが伝わってきてうれしかったです。ジェスチャーなどを使って相手が言っていることや、私の言おうとしていることがお互いに分かったときは、喜びでいっぱいでした。

2日目の夜は最後の記念にみんなで写真を撮りました。ホストファミリーのおばあちゃんは、写真を撮るときに私の肩をだいてくれました。たった2日間の夜だけという短い間だったのに私を温かく迎えてくれて本当にうれしかったです。もう一生会えないかもしれないので別れをするのがとってもさみしかったです。

次の日の朝、とうとう別れをしなければならなかったとき、自然と涙が出てきました。ホストファミリーの人たちも涙を流していました。私はたった2日間だけだと思っていたので、こんなに別れるのがさみしいと思ってくれるとは思っていませんでした。とてもうれしかったです。言葉や文化が違ってやっぱり同じ人間同士で、心をかよわせることが実感できました。無理かもしれないけど、今度は英語と中国語をもっと勉強して、中国に行つてホストファミリーの人たちに会いたいです。

私は今回中国に行つて本当によくさんのことを学ぶことができました。日本に帰つてきてからも気持ちの持ち方が少し変わりました。少し大人に近づいた気がします。中学生訪中親善使節団に参加できて本当によかったです。

お世話になった先生、友だち、そしてホストファミリーの人たち、ありがとうございました。



ホストファミリーの徐悦さんと

## 中国親善訪問をおえて



高松市立山田中学校  
田中 幸二

中国は、僕の大好きな国です。今回中学生訪中親善使節団の一員として参加できた事はすごくうれしかった。中国に着いて、すぐトイレに行きたくなり行くと、日本とは違いドアのないトイレにはびっくりした。僕は、ここで初めて中国に来ているのだと実感し、胸の高鳴りを覚えた。東方明珠塔は、あいにくの雨で残念ながらよく見えなかった。明日は動物園。パンダを実際に見るのは初めてです。パンダが日本に来たのは日中友好のためだったと思う。すごく可愛かった。一頭は食事に夢中だったがもう一頭は近くまできてくれ、僕たちをまるで歓迎してくれているようだった。この日は玉仏寺を見学した。そこで感じた事は、中国も日本の寺も雰囲気がよく似ていると思った。やはり昔から中国とは交流があったのではと思った。

3日目、南昌では友好会館での人民政府の表敬訪問を終え、滕王閣や八大山人記念館を見学、夜は歓迎会、僕はそこであいさつする事になっていたのですが、皆の前でうまく言えるだろうかと心配で、胸がドキドキしていたが、なんとか無事にあいさつする事ができ、ほっとした。次はホームステイです。今度は不安になった。迎えに来てくれたのは優しい両親でしたが、子供さんが一緒に来てなかったのが緊張した。どうしたんだろうと考えているうちに、ステイ先の家に着いた。そこでびっくりしたのは、なんとその家の子(李真)の友だちが15人も来ていて、僕の着くのを笑顔で待っていてくれたのです。僕は一瞬とまどってしまいました。話す事のできない僕は、ただ謝辞と頭を下げるだけが精一杯だった。少し慣れた頃、自己紹介し、本を片手にジェスチャー交えての会話はあまり通じずつらかった。そんな僕たちを見てホストファザーは写真をたくさん撮ってくれた。

4日目、南昌の中学生との交流会でした。言葉は通じないが、いろいろな出し物や○×ゲーム、歌、踊りを通してお互いの心が解け合ったようで、楽しい交流ができたと思う。ホームステイ2日目、またしても今度は親せきの人や友だちが29名も会いに来てくれた。なんと温かい人たちがかりかと思えた。その友だちとも今日が最後かと思うと、寂しくて話す事のできないもどかしさを感じた。別れる時、皆泣いていた。僕もつらく悲しかったが笑顔で謝辞を何度も何度も言って別れた。僕はもう一度中国へ行きたいと思った。

5日目、一番行って見たかった万里の長城です。秦の始皇帝が北方騎馬遊牧民族匈奴の侵入を防ぐために築かれた全長約6350キロメートルの城壁で、人類が残した世界最大の建造物のひとつで「月から見える地球唯一の建造物」だそうです。想像していた以上にはるかに延びる城壁は天にまで続いているようで、本当に人の作った物かと驚異的に思った。世界遺産の一つと言われるだけあってすばらしい自然の美しさ、偉大さは、さすがに中国だなあと改めて感服した。男坂は、

苦しかったが登ったかいがあった。眼下に広がる眺めは大パノラマで感動的だった。故宮、天安門広場、これも又日本と比べ物にならないほどスケールの大きさには驚いた、と共に中国の皇帝の暮らしぶりやその時代の文化をうかがい知る事ができたように思う。僕の一生心に残る貴重な体験となった。今回の6日間は緊張と不安、とまどいの毎日だったが、温かい中国の家族や仲間と触れ合う事ができたことは最大の喜びだし、友情に国境はないという事を実感した。

団長先生をはじめ、お世話になった方々、又仲良くしてくれた友だちに感謝いたします。いつまでも日中友好関係が続きますように。中国の皆様、謝謝！



ホームステイ先の友達と

## 6 日間の国際交流



高松市立屋島中学校  
田中光恵

日本へ帰ってから、もう20日が過ぎようとしている。いや、まだ20日しか経っていないというべきだろうか。とにかく、夢のような6日間だった。本当にあっという間の……。

あまりに短すぎた6日という時間。だが、その限られた時間の中で、中国は私にたくさんの物を見せ、聞かせ、そして感じさせてくれた。悠久の歴史を持つ建造物。日本とは異なった生活様式。驚きと感動の連続だった。そして何よりも人の温かさ。深い、深い感銘を受けた。

だれもが期待を抱いていたであろう(?)、ホームステイ。私は、はっきり言うとあまり楽しみではなかった。名前しか知らないはずの私を、あんなに歓迎してくれるとは思わなかったから……。だが今思うと、あの6日間があんなに充実していたのは、2日間のホームステイがあったからだろう。友好会館に迎えに来てくれたときから、私の心臓は早鐘を打つようだった。そんな私を、楽しそうにビデオに撮っていたホストファザー。絶えず笑顔でだれより優しくかったホストマザー。全然分からなかったのに、それでも一生懸命話しかけてくれたおばあちゃん。いまでもありありと目に浮かぶ。そして、素依。辞書を片手に必死で話した英語。聞かせてくれたピアノ。学校見学のときの「さくらさくら」(中国語、振り付き)。何より、ずっと一緒に居てくれたこと。たった2日間だったのに、思い起こすと次々に出てくる思い出。ただ心残りなのは、自分が思っていたより全然英語を話せなかったこと。伝えたいこと、尋ねたいことは山ほどあったのに、結局対応しかできなかつたような気がする。クラスメートが25人くらい来てくれたときも。1人とても話しかけてくれる子が居たが、私は果たして半分も聞き取れていただろうか。

国際交流。本当に難しいものだと思う。何より英語。これが必要だろう。「心が通じ合えば……。」もちろんそういう考え方もあるだろう。だが私は、自分の思っていることを表現できなかったこと。何より感謝の気持ちを伝えられなかったことが、1番悔しかった。お互いに異なった文化を理解し合う。そのためにはやはり、共通の言語が必要だろう。正直、中国の子どもたちがあんなに英語を話せるとは思っていなかった。また、町があんなに大きく、そして発展していることも。今、経済成長一直線の中国はめまぐるしい変化が続いている。そんな時期に、実際に中国に触れて、中国を体験して来たことは、私にとって大きなプラスになったんじゃないだろうか。今年9月29日は日中国交正常化30周年だ。これによって、もっともっと交流が盛んになれば、と思う。もう、次の旅は今回の旅とは違う。でもまたきっと中国に行きたい。

お世話になった方々、そして19人の皆さん。とても楽しかったです。謝謝。



ホストファミリーの素依ちゃんの家族と

## たくさんの人たちに会えて



高松市立桜町中学校  
寺下景



上海動物園にて

「ここが中国……」飛行機から下りて初めて踏んだ中国の地。当たり前だけど漢字・漢字・漢字だらけです。でもまだ日本にいるような気がしてなりません。けれどこの6日間で発見した文化の違いはどれにも驚きました。

1、2日目、上海。上海の街並は本当にすごいです。交通量・高層ビルの多さに圧倒されました。魔都と言われただけあって、華やかで妖しい雰囲気でした。2日目の夕方、南京路を歩いていたら、なんと自転車にひかれてしまいました。自動車・自転車・歩行者が全てごちゃ混ぜで、それもすごい量で道路を渡っているのです。しかも車線や信号はほとんど無視です。日本のような比較的安全な所でいたら考えられません。だけど中国の人たちは気にせずすたすたと横断してました。これが文化の違いなのか、

と思いました。2日目の夜は夜行列車で過ごしました。なんと、聞いてはいたけれど紙がない！日本なら紙がないトイレなんて見当たりません。本当に驚きました。

そして、3、4日目、南昌ホームステイ。

1番待ち焦がれていたこの日、ここで私は初めて言語の壁を前にしました。私のホストファミリーの子は李英茄、イングリッシュネームはアリスというかわいい子です。アリスはまだ12歳だけど、とてつもなく英語がペラペラです。お陰で彼女の言葉を理解するのにとても時間がかかりました。普段の英語の学習を怠っていた事を後悔しました。言葉が通じないのがこんなにツライ事だとは思いませんでした。けれど4日目から慣れたのか、学校訪問に始まりスムーズに会話できました。中学校は大学の様に広いです。交流会では素晴らしい芸を見せてくれました。習字や模写にした絵をもらってすごく感激しました。

また、ここで驚いたのがお茶です。某お茶のCMのように茶葉がそのまま入っているのです。お茶も中国から伝わってきた物なのにここまで違いがあるなんて、と感心しました。にしても中華料理の油の多さはなんとも言えず、すごい。なのに街の女の人がスタイル抜群なのは何故なのでしょう？

そして5日目、北京。写真でしか知らない秦の始皇帝が建てさせた万里の長城に、身をもって体験することになりました。意気込んで男坂を選んだ方がいいけど、苦しい・怖い・キツイ。なんせ石段の急斜角は75度はあったのではと思います。高所恐怖症なので足はガクガク。けれど友だちに励まされて、頂上にたどり着いたときの景色は雄大で、全てが吹き飛ぶぐらい美しかったです。

そして6日目、惜しみながら北京をあとに日本に帰ってきました。私がこの訪中旅行で得たものがたくさんあります。1つは心です。今までの日本人としての考え方が知らなかった脳ミソが、異国文化をそのまま認められる心を得て、リニューアルした感じです。

旅行中の最大ハプニングである自転車衝突事故も、その時は私が怒っていたけど、「中国の習慣・風習をそのまま認められる心」を得てから自分のせいだ、と考え方が変わりました。

そしてもう1つ、大切なものを得ることができました。この訪中使節団に携わった人たちをはじめ、使節団の仲間、ホストファミリーの方々と知り合えたことです。迷惑をたくさんかけたけれど、皆さんに会えて本当によかった。そして中国は私にたくさんの事を気付かせてくれた。とても貴重な体験となりました。本当にお世話になりました。謝謝。

## 私の知らない中国



高松市立太田中学校  
戸城多恵

私は歴史が大好きで、特に中国は四千年以上の歴史を持つ国です。一度はぜったい行こう!と  
思っていたので、この訪中親善使節団の一員として中国を訪問できて本当によかったです。

博物館では、絵巻き物や彫刻品などがあり、現代の私の目から見てもすごいと思えるような、  
細かく、丁寧で作られてあり、こんなすばらしい物を昔の人は、道具も今とくらべ物にならない  
ぐらいに劣っているのと思い、中国の歴史は深い!!とあらためて知り、とても感激しました。

ホームステイでは、王さんの友だちが10人ぐらい来てくれて、いっしょに目かくしゲームや、  
トランプ、そして夜の南昌を紹介してくれました。ホームステイ先で夕食を食べた時、とても  
びっくりする出来事に遭遇しました。それは魚の小骨などを、日本ならお皿のはしにでも置きま  
すが、中国ではそのままテーブルに落とすのです。最初は「うっわあ。汚いなあ。何やってんだ  
ろ……。」とっていました。しかしよく考えてみると、それは日本ではしていないから。マ  
ナー違反だから。と、私は自分の国を基準としてすべてを考えていました。その国ではその国の  
しきたりや、マナーなどがあります。中国だってそうです。中国の人はそれが普通なのでしょう。  
「その国をまるごと受け止め、まるごと認める。」こういう視点を持つことも大切だな。と思  
います。

ホームステイ先では、楽しかったこともたくさんあります。王さんが雑誌のモデルをやってお  
り、その時の写真などを見せてもらったり、英語でしりとりをしたり。1時間1時間がとても短  
く感じました。また今度会う時はもう少し英語が話せるようになってスムーズに会話ができるよ  
うになりたいです。

私は今回の訪中で、言葉は違っても、マナー  
などが違っても、中国の文化、生活などに触  
れ、いろいろな事を学びました。これからも、  
この貴重な体験を自分の生活に生かし、将来に  
も生かしていきたいと思いました。

最後になりましたが、お世話になった高松市  
国際交流協会や引率の先生方、そして仲良くし  
てくれた団員のみんなに心から感謝していま  
す!

本当にありがとうございました。謝謝。  
また、いつの日かみんなで会いましょう。  
再見!!!



ホームステイ先にて

## 国境をこえた友だち



高松市立桜町中学校  
松本 祐佳里



広いホームステイ先でチェンチェンたちと

うやら先生に「曲ってはいけない」と言われていたところを、曲らなくてはいけならしく、曲がっては人に聞き、曲がっては人に聞きをくり返していくうちに迷子になってしまい、ついに本屋へ着いた頃は、もうすでに集合時間5分前で、どう考えても間に合うはずがないと思いました。選ぶひまもなく、マンガを選び、あせって帰っているうちに道をまちがってしまい、集合時間をおもいっきり過ぎていて、みんなに迷惑をかけてしまいました。でも、私にとって、この迷子になったことにより、かなりいい体験をしたこととなります。それに最初の目的、『たくさんの人と会話をする』というとてもたいへんだと思っていた目的は、達成したことになります。

その日の夜、私たちは夜行列車に乗りました。そこでは、班の子とたくさん話して、ものすごく仲良くなりました。

翌日の朝、南昌へ着きました。でもその日の事はホームステイの事で頭がいっぱいで、記憶をたどってもなかなか思い出せません。

私のホームステイ先はとても広い家でお庭があり、自分のための部屋までありました。いっしょに遊んだチェンチェンは、やさしくてかわいくて最高の子でした。お母さんは世話好きで、なんでもしてくれて、おばあちゃんにはとても気に入られて、何をやっても喜んでくれました。その夜は意外に早く眠れました。

その次の日、食べきれないほどの朝食を作ってくれていて、それを私は残してしまいました。それがたとえ中国の礼儀だとしても、あまりごはんを残さない私にとっては、とてもつらく、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

それから南昌の中学校へ行きました。そこではやはり、中国人ははなやかな物が好きなんだと思いました。そして、中国の中学生はとても素直ではじめのある子たちだと実感しました。

それから、南昌のたくさんの所を見学して、また、ホームステイ先に帰りました。帰ってすぐチェンチェンの友だちが来て、たくさんの楽しい遊びを教えてくださいました。たくさん遊んだ後、夕食を食べ、今度は男の子が家族で遊びに来ました。彼は、私たちが学校へ行った時、ある子に一目ぼれたらしく、彼女のことをいろいろ聞かれているうちに2時間ほどたっていました。彼のお父さんは日本語が少ししゃべれていました。その夜はとても楽しい時間をすごせたと思いました。

南昌を去り北京へ行き、バスの中でこの6日間で1回雨が降っていたことを耳にしました。その雨は、中国では半年ぶりに降ったと聞きとてもびっくりしました。ただでさえ水不足の香川は、たったの1か月で水もカラカラになるのに、中国ではなぜ半年もの間雨が降らなくても平気なのか、少し疑問に思いました。

私は、この長いようで短かった6日間、たくさんの友だちといい体験ができたことを幸せに思います。



## 発 展 中 国



高松市立玉藻中学校  
御 堂 穂乃香



ホストファミリーと

私は、相手の子に支えられながら日中友好会館を後にしました。行きの車中、英語で何を話しかけられても分からなくて相手の子はとても困っていたけど、一生懸命私の発音の悪い英語を聞きとろうとしてくれました。学校で習った文法や単語は彼女たちにとっては英語の一部にすぎず、私の分からない単語はすべて、お互いの辞書での会話となっていました。私は、中国の子供たちの英語力の低さを目にあたりました。ジェスチャーでも通じない時はとてもつらかったけれど、分かろうとしてくれるホストファミリーを見てありがたうと心から思いました。ホームステイ2日目は、夜、相手の子が友だちをいっぱい連れてきてくれて、10時過ぎまでキャーキャー叫んでいました。皆が帰ったあと、中国語で「麻煩您了。」(お世話になりました。)と言った時、ホストファミリーは「そんなことないよ。いつでも来なさい。」と言ってくれて、涙で目が曇りました。翌日、日中友好会館での別れるとき、ずっと抱き合って泣きました。どんなに言葉の壁や文化の違いがあっても、彼女は私の話を分かろうとしてくれました。その事を思い出すと、泣かずにはいられませんでした。私がバスに乗っても、顔を真っ赤にして見えなくなるまで手を振ってくれました。

これからは、地球規模の問題が増えてくると思います。そのためにも、地球の全ての人たちが一団となって1つ1つの問題に対応していくべきだと思います。今、いろんな所で戦争している場合ではないのです。もうすぐ来るであろう問題に皆で立ち向かわなければならないのです。私は、そのための絆を作れたと思いました。

3つ目の目的は歴史的建造物の見学です。中国がなかったら現代の日本もないと言っても過言ではないほど、日本の発展に深く関わる中国の古代建造物を、ぜひともこの目で見たいと思っていました。私には、その中でも行ってみたい所が2つありました。1つは八大山人記念館です。自分自身は絵は本当にへたなのに、人の描いた山水画などをみるのはとても好きです。だから、中国の有名な画家の八大山人の山水画を見たかったのです。あの迫力のある絵にとっても感動して、声も出ませんでした。

2つ目は、やっぱり万里の長城です。秦の始皇帝が作らせたという万里の長城に行くことはとても楽しみでした。でも、思ったよりも長くて、男坂だったので高く、みんなのいる所まで行くのが精一杯でした。でも、そこから見える女坂やまだ続く男坂、そして周りの木々はとてもきれいで、一枚の絵のようでした。しかし、登ったら降りなくてはいいいです。高所恐怖症の私は恐くて、90度に近い坂を叫びながら降りました。一生懸命降りた坂も、もう思い出です。

こうして私の中国旅行は終わりを告げました。私は、初の海外旅行だったので、失敗ばかり起こしたけれど、無事に日本へ帰ってこれたのは、白井先生をはじめとする他の団員の皆さんのおかげです。ありがとうございました。途中で倒れた時、みんなが本当に心配してくれて、私はとてもうれしかったです。「大丈夫か。」とか「無理するなよ。」とか声をかけてくれたとき、心にジーンとききました。あと、中国の方々、謝謝。今度は落ち着いて中国の地を踏みたいと思います。

これからの日本社会を生きる私たちにとって、自国を知ることは基本なのではないでしょうか。私は中国の子どもたちを見てそう思いました。自国を誇らしく思う彼女たちを見て、そう思いました。

またどこかで会う日まで、再見。そして謝謝

## 一番の経験はホームステイ



高松市立山田中学校  
藪木 健吾

僕が今回中学生訪中親善使節団の一員として体験した事は、とてもいい体験だったと思います。中国という異国の場所では、予想していた以上に学ぶ事がとても多く、驚かされる事ばかりでした。中国という名にはその壮大さに、玉仏寺では仏像の数や大きさに、滕王閣ではその高さに、豫章中学校ではこちらの中学校の二倍以上の広さと美しさに驚きの連続でした。これらの物を見るだけでも無知な僕には色々な事を知る事ができました。しかし、これらにもまして、僕にはホームステイが一番の経験だと思っています。なぜならホームステイが無ければ中国人と少しでも中国語をしゃべる事は無かったと思うからです。でも最初からホームステイが一番とは思っていませんでした。最初、ホームステイがあると聞いた時はとても不安で、一番嫌だと思っていました。でもホームステイの日が近づいてくるにつれ、不安は増えず、逆に不安が好奇心に変わっていき、ホームステイ当日は、不安など無く好奇心でいっぱいでした。(中国語をしゃべれるかどうか不安というのは別として。) ホームステイ先の子と会った時はかなりうれしくなった。なぜなら何となくうまくやっていけそうな雰囲気を持ち主だったから。案の定、結構会話もはずみ、盛り上がりました。ただ会話をするのに使った言葉の約九十パーセントが英語で、約八パーセントが日本語(向こうの子がいくつかの言語の載っている辞書?を持っていったから。)、残りの二パーセントが中国語という僕にとってとてもみっともない会話になってしまった。向こうの子は一生懸命日本語で話そうと努力してくれているのに、僕は向こうの子の日本語の学力と英語力、そして辞書?に頼ってしまい、全く中国語で話そうという努力すらしなかった。それが今回の僕の反省点の一つ。反省点のもう一つは、食事のマナー。この事は叱られたが、一つの思い出にもなった出来事。(ホームステイ中では無い。) 反省する事はたくさんあった。ここには書ききれない



万里の長城にて

程の事ばかり。でも反省した事は学習した事。今回の体験は全てが僕に知識を与え、全てが僕を大きく進歩させた貴重な体験。「百聞は一見にしかず」とはこの事。中国の事は、いろんな人から聞いていて驚いたりしていたが、実際にこの目で見て驚いたくらい聞いて驚いた事は無い。実際にこの身で感じたことは自分で行かなければ分からない。こんな貴重な体験をさせてくださった団の先生方、各機関のみなさん、お父さんお母さん本当にありがとうございました。

